

第4期 9回目授業

～1時限目 武蔵野学院大学准教授 上松 恵理子 先生

教育×ITで変化する学習スタイル～

10年間丸々主婦だった、社会との関りがなかった…復帰した頃にはワープロではなく、パソコンがあり周りの人はガラケーを持っていた。あまりにも進化が激しく勉強をしたくて大学院に入った。教育にITが入ってきたので世界のIT教育を研究した。



今までは学ぶことに選択肢があったがこれから、IoTの時代になると生涯学び続ける必要がある。冷蔵庫、玄関、車などがすべてインターネットによる管理となる。日常のもので使わないわけにはいなくなる。

工場ではロボットが働いている。学校では授業を受けている生徒の顔をAIが理解しているか、退屈に思っているかなどをAIの顔認証で調べることができるようになる。また無料で大学の授業が受けられる様になるとどうなるか？

日本では大学に行くことが就職のためや見栄などで十分に勉強せずに卒業してしまう。しかし、インターネットを使ってない国がネットを導入すると国が大きく

変化する。インターネットにより無料で大学の授業を受けれることによって必死に勉強する。知識のインテリジェンスの構図がガラッと学習スタイルも変わる。

*** 個々人に合わせられる学習環境が必要！モチベーションを高め、自身の学習プロジェクトやプロセスを他の人と協力することにより、学習経験や機会を可視化し、シェア出来るようにする。基礎的な識字と計算力も重要！**

*** 地域との関りのなかで「生き延びる力」がとても重要！これからは、未曾有のことに対して「生き延びる力」が必要。**



～2時限目 全日本空輸(株) 来住 裕子 先生 第一印象を良くするコツ～



1995年イギリスでICの授業が始まった。24年勤務。教育訓練の教官をしていた。今ではVRで客室乗務員の訓練をしている。

接遇とは人間関係の潤滑油となる。

サービス、マナー、おもてなしは普段使っている。

サービス…受ける側、する側に分けられる。お客様は対価を払う。線引きが大事

マナー…お客様と同等。相手に不快にさせない。お互い気持ちのいい空間を作る。

おもてなし…マナーに気持ちを乗せる事。数限りない。

***この3つを合わせて接遇と呼ぶ！**



○第一印象は 15 秒で決まる!!

見た目 55% 耳で聴こえる 38% 話の内容 7%

(笑顔、姿勢、清潔感、雰囲気、話し方、臭い、声、髪型)

・特に笑顔は大事!

客室乗務員は長時間の笑顔にしないとイケない。なぜ、長時間つくれるのか。

表情筋の正しく使えている。口角を上げるだけでも緊張もほぐれる。

頬骨を真上に 1 cm 上げるトレーニングをする。 *自分で作れている笑顔はない! 実は真顔になっている。

・笑声 (笑顔で出す声) …電話で不機嫌などに思われなくなる。

笑顔は伝染していき、良い空間になっていく。

・あいさつ…自身からあいさつする。



・アイコンタクト…男性は苦手傾向である。コツがある。「人⇒もの⇒人」
いつでも練習ができる!

(例)「お待たせいたしました。⇒こちらをどうぞ⇒ごゆっくりどうぞ」

一番最後の「人」が大事。ものより 3 秒長く人を見る! 最後の印象が良いと全体が良く思える。これらのポイントを戦略的に使う。

～ 3 時限目 四国大学短期大学部 ビジネス・コミュニケーション科 教授

加渡 いづみ 先生 学生による地域魅力発見プロジェクト発表会～



・四国大学生による上板の魅力を発見する「ミタカミ・プロジェクト」の一年間の研究成果を発表してくれました。IT 班、サイクリング班、カフェ班の 3 班がそれぞれの視点から上板を研究してくれました。

最初に IT 班はかきじいの旅番組を動画にして名所の HP や見た目では伝わらない魅力 30 秒動画にしてくれました。安楽寺、大山寺、大山寺の力餅が題材でした。

次にサイクリング班ではプロンプトン自転車で「健康づくり」と「お寺や神社を巡り上板町の歴史と文化を知る」ことを目的としました。5.5 km の短距離コースは 1 時間程度で回れます。16 km の長距離コースは 3 時間程度を設定してくれました。サイクリング班は当初、歩いて飲食店を巡ることを考案していましたが、あまりにも距離があったため自転車を採用することで実現可能にしました。サイクリングマップも作成してくれました。

最後にカフェ班は技の館の屋上のドローン基地で星空カフェの開催を目指しています。そこでは上板町のカフェや喫茶店のメニューなどを提供してもらうことや食べられる藍で藍に関心を持ってもらうことも考えてくれました。

このプロジェクトは後輩たちに引き継がれ上板町がより良いものになっていくことが期待できます!

